

演目解説

管 絃

黄鐘調音取 おうしきちょうのねとり

唐楽六調子^{りくちようし}の一つで、洋楽のA音に相当する音を基音とした律旋^{りっせん}の調子です。

音取は、演奏に先立って奏する短い曲で、音律を整えその調子の雰囲気を作ります。

西王楽破 さいおうらくのは

仁明天皇の御作で、舞を犬上長成^{いぬがみのこれなり}が作ったと伝えられています。もとは催馬楽^{さいばら}の「葦垣^{あしがき}」の旋律を序として演奏されたといわれていますが、現在は舞も序の曲も絶えて、この破の曲だけが残っています。

舞 楽

左方 還城楽 さほう げんじょうらく

唐の玄宗（在位712年～756年）が国内の乱を平定し、夜半に帰城した時、「夜半楽^{やはんらく}」とこの「還城楽」が作られたといわれています。

舞は一人舞で、舞人は襦袢装束^{じゆたんそうそく}（袍の上に襦袢（打ち掛け）をつける装束）を着て面を付け、右手に桴^ぼを持って舞います。

まず笛と打楽器により乱序^{らんじよ}（4拍の拍節を奏する打物により舞うもの）があり、次に早只八拍子^{はやただやひょうし}（2拍と4拍の混合拍子）により当曲の舞（この曲の主題となっている曲の舞）、最後に再び乱序を舞います。

なお、始めの乱序の舞の途中で、蛇持^{へびもち}が舞台上に登り中央に蛇を置きます。

海青楽 かいせいらく

仁明天皇（在位833～850年）が神泉苑に行幸になった折、船の上で雅楽を演奏している楽人に対して、池を三回まわる間に新曲を作り、池の中の島でこれを演奏せよとの仰せがあり、笛師^{おとの}・大戸清上^{おほのきよがみ}・篳篥師^{ひりきし}・尿唐^{いぼりまろ}などが、早速作曲して演奏したのがこの曲であると伝えられています。

越殿楽 えてんらく

漢の文帝（在位前180年～前157年）が作ったとする説と日本で作られた曲であるとする説とがあり、はっきりしたことはわかりません。

同名で、平調^{ひょうじよう}、黄鐘調^{おうしきちよう}及び盤渉調^{ばんしやくじよう}の三つがありますが、今回は黄鐘調で演奏します。

長保楽 ちようぼうらく

「保曾呂久世利^{ほそろくせり}」を「破」の曲とし、「加利夜須^{かりやす}」を「急^{きゅう}」の曲として、一條天皇の長保年間（999年～1004年）に、この二曲を一曲にまとめたもので、その時の年号を曲名にしたと云われています。

右方の四人舞で、舞人は蜜絵装束^{みつえそうそく}に冠を着用して舞います。

台東区立浅草公会堂案内図



所在地：台東区浅草1-38-6 TEL: 03 (3844) 7491

メトロ銀座線（渋谷～浅草） 浅草駅徒歩5分 東武鉄道 浅草駅徒歩5分
都営浅草線（西馬込～押上） 浅草駅徒歩7分 つくばエクスプレス（秋葉原～つくば） 浅草駅徒歩3分

健康とむきあうひとときを、もっとゆたかに、快適に



人間ドック 各種健康診断 一般外来

- 日本人間ドック学会機能評価認定施設
- 日本総合健診医学会認定優良総合健診施設
- 全国健康保険協会生活習慣病予防健診施設

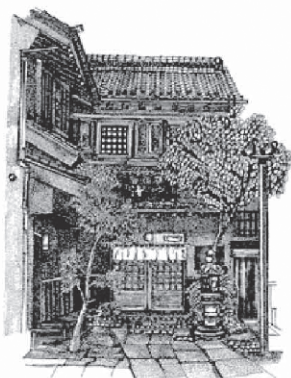
<https://www.seiokai.jp>

TEL.03-3873-9161

東京都台東区根岸2-19-19
JR日暮里・鶯谷駅徒歩6分



台東区総合健康診査・子宮頸がん検診・マンモグラフィ併用乳がん検診 受託機関
医療法人社団 せいおう会 鶯谷健診センター



台東区浅草一ノ三九ノ一三
電話(三三四一)四〇一五(代)
<http://www.nakasei.biz/>

天麩羅 中清



宮内庁型楽太鼓



羯鼓

この国の佳き伝統とともに
株式会社 宮本卯之助商店
創業文久元年 太鼓・神輿・祭礼具 製造販売
〒111-0035 東京都台東区西浅草2-1-1
tel.03-3844-2141 fax.03-3842-6730
www.miyamoto-unosuke.co.jp